

平成30年4月24日 会頭記者会見 発言要旨

時事の話題

先の京都府知事選挙で西脇さんが勝利し、新たに知事に就任されたことに心よりお祝い申し上げます。今回の新知事誕生は、多くの府民が山田府政の継承と発展を望むとともに、西脇新知事の中央省庁での豊かな経験や人脈、ビジョンに掲げられた施策の実行力などを評価し、期待した結果だと捉えている。経済界としても、来春にオープンする「京都経済センター」の整備をはじめ、新知事が掲げられた「安心・いきいき・京都力」による新しい時代の京都づくりへの挑戦に全面的に協力し、京都の知恵や文化、創造性をいかした産業振興、まちづくり等を加速させていきたい。

国会では、森友学園や加計学園に関する問題、また陸上自衛隊の日報問題など、政治家・官僚に絡む問題が連日取り上げられ紛糾している。これにより行政・政治に対する不信感が高まっていることは極めて残念だ。内閣の支持率低下に歯止めをかけるためにも、しっかりと問題の真相を解明し、国民への説明責任を果たしていただきたい。

一方、この影響で、政府が最重要法案と位置づける「働き方改革関連法案」の成立が不透明な状況となっている。また、平成30年度予算の審議でも財政健全化に向けた議論が十分になされていないなど、本来国会が果たすべき重要な役割を果たせていないことを懸念している。

中小企業は深刻な人手不足に喘いでおり、働き方改革と生産性の向上は待ったなしの状況だ。国際情勢では、米国の保護主義への傾倒や北朝鮮をめぐるさまざま問題など、目まぐるしく状況が変化している。国家の未来と国民の生活に関する議論を進めるために、一日も早い国会の正常化を強く望みたい。

京都商工会議所の動き

■第15回京都・観光文化検定試験について

昨年の京都検定では8年連続で受験者が増加し、また団体表彰制度として「G-1グランプリ」を新たに実施した。今年も京都市民・府民をはじめ、企業などの団体受験や全国の京都ファンの方々にも受験いただき、京都検定を通じて幅広く奥の深い京都の魅力に触れていただきたい。

今年の公開テーマを次の通り発表する。

3級の「きぬかけの路」は、金閣寺、龍安寺、仁和寺を結ぶ人気の観光コースであるとともに、立命館大学や先日リニューアルオープンした堂本印象美術館など、文化・学術が息づく地域でもある。京都の歴史や文化を幅広く学んでいただけるとは考えている。

2級では、今年が「明治150年」にあたることから、明治時代の京都の出来事や史跡等について出題する。

1級では「京都御苑と御所・離宮」を公開テーマとした。京都御所や京都迎賓館の通年公開も定着してきたが、京都検定の事前学習を通じて、皇室によって育まれた自然や文化などの魅力に触れていただきたい。

また、今年で京都検定は 15 回目を迎えるが、この節目に首都圏での京都検定の機運を高めるとともに、さらなる受験者の拡大をめざし、「京都検定のつどい in 東京」と題して、東京で交流会を開催する。合格者だけに限らず、京都検定に関心のある多くの方にお集まりいただきたい。

■人材確保及びインターンシップに関する状況について

会員企業の人材確保・インターンシップ等に関して実施したアンケート調査について、結果を取りまとめた。本調査は、本所会員企業における人材確保の現状を把握し、人材確保支援事業の参考とするために実施した。

平成 30 年春入社の新卒採用活動結果については、必要数を確保できた企業は昨年同様の 5 割程に留まった。ただ、確保できた・できなかったにかかわらず、多くの企業では「選考途中での辞退」や「内定後の辞退」が起きていることがわかった。

新卒採用活動における課題については、半数以上の企業が「学生への知名度不足」を挙げている。また、インターンシップの有効性については、3%の企業が「非常に有効である」、「それなりに有効である」と回答しており、「早期に学生と出会い、自社を知ってもらう手段としては最も有効である。」といった声もあった。これらのことから、中小企業の情報発信力強化の重要性を強く感じている。

多くの中小企業が、学生優位である売り手市場の影響を受けて人材確保に苦労している一方で、約 7 割の企業が来年度以降の採用についても、採用数は「前年度同程度」、もしくは「増やす」と回答しており、企業側の採用意欲は引き続き高いことがうかがえる。

この結果を踏まえて、今年度新たに「京商ワークナビ」事業として、中小企業の情報発信支援のため、主に大学生に向けたウェブサイトを立ち上げるほか、「新卒採用戦略セミナー」に取り組むなど、会員企業の効果的な人材確保支援事業に取り組んでいく。

記者からの質問事項

■京都府知事選挙について、票差が 8 万票と僅差での勝利となったが、これをどう受け止めているか。また、経済界として西脇新知事に何を期待しているのか。

僅差となった要因としては、投票率が 35.1%と過去 2 番目に低く、選挙に対する有権者からの関心が低かったことがあるのではないかと。その背景には、約 40 年にわたって続いている「非共産対共産」という構図への批判があるだろう。国政と地方で異なるとはいっても、国会では激しく対立している与野党が相乗りで候補者を応援していることに、違和感を持った有権者が多かったのではないかと。

また、森友学園問題や自衛隊の日報隠ぺい問題などで、中央官僚に対する不信感が高まったことも、官僚出身の西脇さんにとってはマイナスに働いたのではないかと。こうした要因が重なり、無党派層や一部の野党支持者が相手候補に流れたものとみている。今後は、政党にかかわらずより具体的な政策論争が高まるような選挙戦が求められるのではないかと。

とはいえ、西脇さんは多くの府民からの信託を受けて当選されたのであり、新知事として京都の発展に向けて十分に力を発揮していただきたい。経済界としても、オール京都で連携し、府内の基盤整備をはじめ幅広い施策に対して協力していくつもりだ。

経済界からの新知事への期待としては、「経済成長と雇用の安定」への取り組みを推進してもらいたいと考えている。そのためには国が掲げている「生産性革命」「人づくり革命」「働き方改革」と連動した取り組みが必要であるが、西脇新知事は国とのパイプも豊富にお持ちなので、それを活かしながら早急に実行していただけると確信している。また「自立した未来の京都づくり」も重要だ。山田前知事や門川市長などと策定した「京都ビジョン 2040」を引き継ぎ、将来の京都のあるべき未来像を、我々経済界を含め、様々な分野の皆さんと共有しつつ、さらなる発展に向けて具体的に取り組んでいただけると期待している。

さしあたって、京都経済の成長基盤となる「京都経済センター」について、来春のオープンに向けて、中心となる8つの機能の整備と充実、さらには完成後の運営体制について京都府とも連携を強化して取り組んでいきたい。

■今国会でI R（カジノを含む統合型リゾート）推進法案が審議され、大阪府・市が施設誘致に声を上げているが、京都経済界としてはどのように捉えているか。

大阪での万博開催も含めて、I Rは関西全体としては経済の活性化と成長に大きく貢献することが期待できるのではないかと考えている。

しかし、数多くの文化財や観光資源を持ち「世界文化首都」を目指す京都としては、I R自体を前向きには考えていない。経済界も含めた京都全体としては、京都へのI R施設誘致には否定的に捉えている。

■経済も人も東京への一極集中が進む中でも、京都の代表的な企業は本社を京都に残しているが、他都市と異なる京都の特徴についてどのように捉えているか。

京都は1200年の伝統と文化を基盤とした、世界的にも稀な文化都市である。一方で、先端技術を活かしたビジネスを展開する企業が多く存在しており、これらが混ざり合って京都の魅力となっている。これを背景に、オール京都で「京都ビジョン 2040」を策定し、共有しながら関係機関が具体的な事業に取り組んできていることが、京都の魅力をさらに高めることにつながっている。

近年、観光客の増加により市内中心部の地価が上昇しているが、オール京都で長年にわたって京都の都市ブランド向上に取り組み、その魅力を発信し続けてきたことにより、国内外の多くの人々に京都の魅力が伝わり、ぜひ訪れてみたいという需要が広がった成果でもあると捉えている。

以 上

定例会頭記者会見



日時：平成30年4月24日(火)14:00～14:30

会場：京都商工会議所 3階 第3会議室

1. 第15回京都・観光文化検定試験について . . . 資料①

2. 人材確保及びインターンシップに関する状況について . . . 資料②

以上

第15回京都・観光文化検定試験実施概要

試験日 平成30年12月9日(日) ※12月第2日曜日固定

試験会場 【京都】 京都市内の大学等 【東京】 東京の大学等
中高生チャレンジ会場：京都商工会議所・市内中学校・高校

団体申込 申込期間 9月3日(月)～10月22日(月)
受験料 1級：5,190円／2級：3,460円／3級：2,600円
※団体受験料はのべ10名以上で適用、10名未満の場合は一般受験料
中学校・高等学校の自校開催は3級：1,620円

一般申込 申込期間 9月3日(月)～11月5日(月)
申込方法 ①インターネット ②コンビニ端末 ③郵送
受験料 1級：6,480円／2級：4,320円／3級：3,240円

受験資格 ・学歴・年齢・性別・国籍等の制限はありません
・1級試験の受験は、2級合格者に限りません

試験級 1級 京都全般に関する「高度な知識レベル」
<制限時間> 90分
<出題> 記述式：語句・穴埋め問題60問以内・小論文5問以内
<合格> 80%以上の正解をもって合格

2級 京都全般に関する「やや高度な知識レベル」
<制限時間> 90分
<出題> 四者択一100問以内
<合格> 70%以上の正解をもって合格

3級 京都全般に関する「基本的なレベル」
<制限時間> 90分
<出題> 四者択一100問以内
<合格> 70%以上の正解をもって合格

出題範囲 歴史・史跡、神社・寺院、建築、庭園、美術、伝統工芸、伝統文化、花街、祭と行事、京料理、京菓子、ならわし、ことばと伝説、地名、自然、観光
京都に関すること全般

★「新版 京都・観光文化検定試験公式テキストブック」より3級：90%、
2級：70%を出題、1級は共通範囲に準拠して出題。

第15回公開テーマ (第10回から設定)

〔3級〕 きぬかけの路

〔2級〕 明治150年

〔1級〕 京都御苑と御所・離宮

【参考】 前回 (第10～13回) までのテーマ

<第10回>

3級	「京都“花の名所”」	10問
2級	「洛北：大原・八瀬・比叡山」	10問
1級	「京都と映画」	10問

<第11回>

3級	「伏見・宇治」	10問
2級	「京の食文化」	10問
1級	世界文化遺産「古都京都の文化財」	10問

<第12回>

3級	「洛西：嵐山・嵯峨野・乙訓」	10問
2級	「琳派」	10問
1級	「京都の三大祭」	10問

<第13回>

3級	「京のおみやげ」	10問
2級	「山科・小野・醍醐」	10問
1級	「京の七口と街道」	10問

<第14回>

3級	「京都駅界限 (かいわい)」	10問
2級	「京都 茶の文化」	10問
1級	「京都の塔」	10問

京都検定のつどい in 東京 のご案内

検 京
定 都

京都・観光文化検定試験[®]
京都商工会議所

日頃より、京都検定事業にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

京都検定は今年で15回目を迎えます。この節目に、京都検定事業に関心をお持ちの首都圏の皆さまと京都検定について語りあい、交流する機会を設けたいと考え、「京都検定のつどい in 東京」を企画いたしました。当日は、京都検定講演会講師によるミニトークや、ワークショップ、交流会の3部構成で行うほか、第15回京都検定のPRブースも設ける予定です。

京都検定に関心をお持ちの皆さまによる交流の機会です。ぜひ、お気軽にご参加下さい。

記

1. 日 時 平成30年6月30日(土)
15:30~19:00 (15:00より受付開始)
2. 場 所 東海大学校友会館 (東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル35階)
3. 次 第 第1部 ミニトーク「京都検定講師の笑い涙のミニトーク」
京都検定1級合格者であり、京都検定講演会講師でお馴染みの山村純也先生と、塩原直美先生によるミニトーク。自身の受験体験談を交えながら、「京都」をテーマに第一線で活躍するまでのエピソードや、京都にかける思いを楽しくお話しします。
第2部 ワークショップ「もっと“楽しむ”京都検定」
グループにわかれ、京都検定にちなんだテーマで懇談いただけます。
第3部 懇親交流会
ご参加いただいた皆さま同士で交流を深めていただけます。
4. 会 費 5,000円
5. 定 員 先着120名
6. 締 切 5月31日(木) ※定員に達し次第締め切ります
7. お申込 ①会費を下記振込口座にお振込みください。

振込先	京都銀行 本店営業部 普通預金 4085210
	「京都商工会議所」

②ホームページよりお申込みください。

ホームページ	http://www.kyotokentei.ne.jp/tsudoi.html
--------	---



- 開催の約1週間前に参加証をお送り致しますので、当日受付にて参加証をご提示ください。
- 当日は軽装にてお越しください。
- ご記入いただきました個人情報、本事業の管理・運営のほか、京都検定に関する各種連絡・情報提供のために使用させていただく場合がございます。

<お問合せ>

京都商工会議所 京都検定担当 泉谷、小林、堀口
TEL: 075-212-6440 FAX: 075-222-2612
Mail: kyotokentei@kyo.or.jp



アンケート＜概要報告＞ 「人材確保及びインターンシップに関する状況について」

・趣 旨

本所会員企業における人材確保の現状把握、中小企業に関する情報の積極的な発信及び教育機関と京都企業のつながり強化を支援する事業を進めること、中小企業の人材確保に係る支援についての要望を聴取することを目的とし、アンケートを実施した。

・調査内容

- ・平成30年春入社の新卒採用活動結果について
- ・新卒人材採用活動における課題について
- ・採用活動におけるインターンシップの有効性について

・調査対象 京都商工会議所会員企業（業種の制限なし）
従業員数50名以上の企業 628社

・調査期間 平成30年3月7日（水）～3月20日（火）

・調査方法 FAXによる調査票の発送・回収

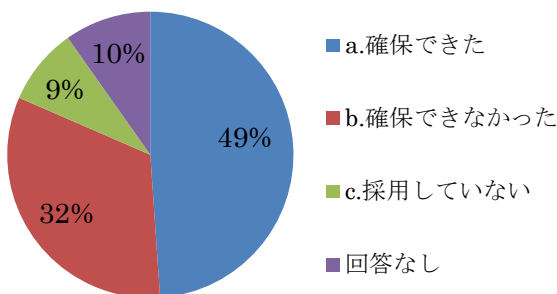
・回答企業数 93社（回答率15%）

・概 要

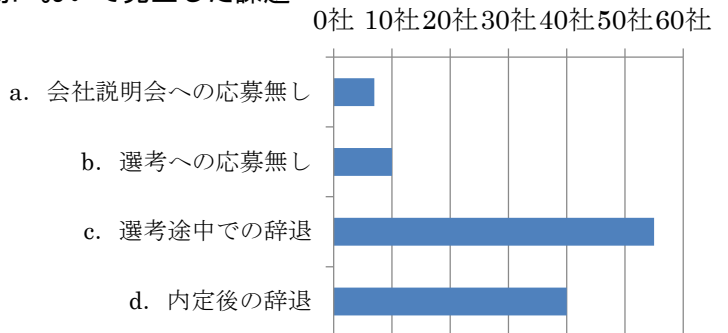
平成30年春入社の新卒採用活動結果について

必要数を確保できた企業が5割程に留まる結果となった。また、採用活動において、多くの企業で「選考途中での辞退」や「内定後の辞退」起きていることがわかった。

必要数を確保できたか

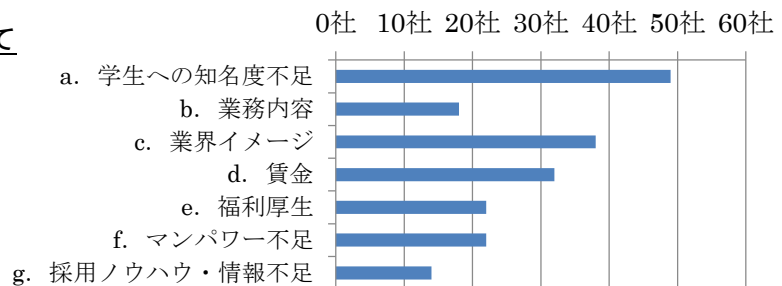


採用活動において発生した課題



新卒人材採用活動における課題について

「学生への知名度不足」が最多、次いで「業界イメージ」、「賃金」となった。



採用活動におけるインターンシップの有効性について

「それなりに有効である」と回答した企業が63%と最多であった。

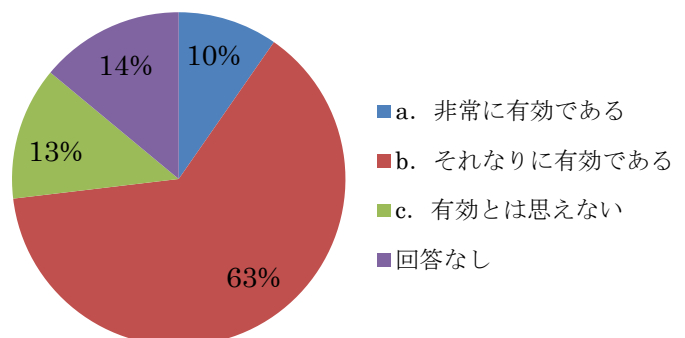
（主な意見）

非常に有効である

- ・早期に学生と出会い、自社を知ってもらう手段としては最も有効である。

それなりに有効である

- ・インターンシップ参加者から内定者は出なかったが、今後につながると考えられる。



人材確保及び
インターンシップに関する
状況について

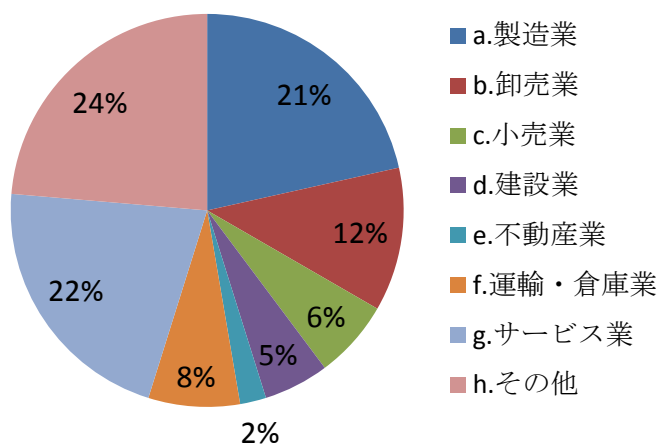
平成30年4月
京都商工会議所

調査実施概要

- 1 調査期間：平成30年3月7日(水)～3月20日(火)
- 2 調査対象：京都商工会議所会員 京都市内本社 従業員数50名以上 628社
- 3 調査方法：FAXによる調査票の発送・回収
- 4 回答数：93社 (回答率 15%)
- 5 回答企業プロフィール

① 業種

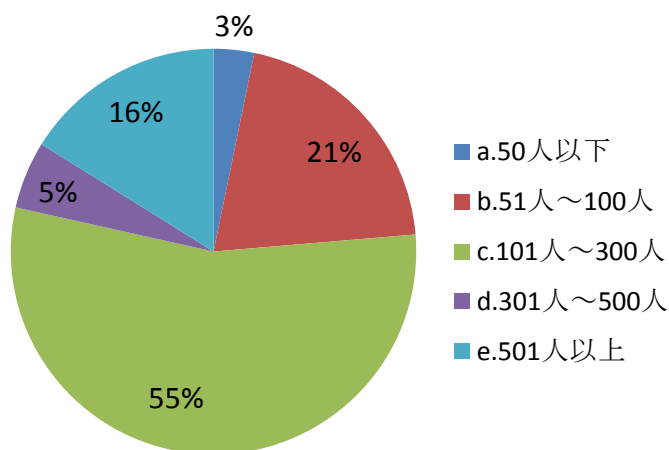
業種	社数	%
a. 製造業	20	21
b. 卸売業	11	12
c. 小売業	6	6
d. 建設業	5	5
e. 不動産業	2	2
f. 運輸・倉庫業	7	8
g. サービス業	20	22
h. その他	22	24



回答のあった業種は、製造業、サービス業、卸売業、小売業、運輸・倉庫業、建設業、不動産業の順となっている。その他には、教育、情報サービス、広告デザイン、出版、病院、医療・介護、金融、文化団体などが含まれる。

② 従業員数

区分	社数	%
a. 50人以下	3	3
b. 51人～100人	19	21
c. 101人～300人	51	55
d. 301人～500人	5	5
e. 501人以上	15	16

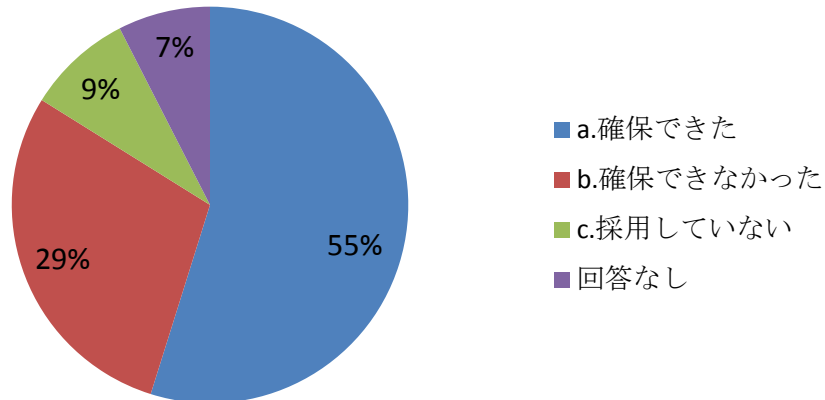


従業員数50人以上300人以下が76%を占める。

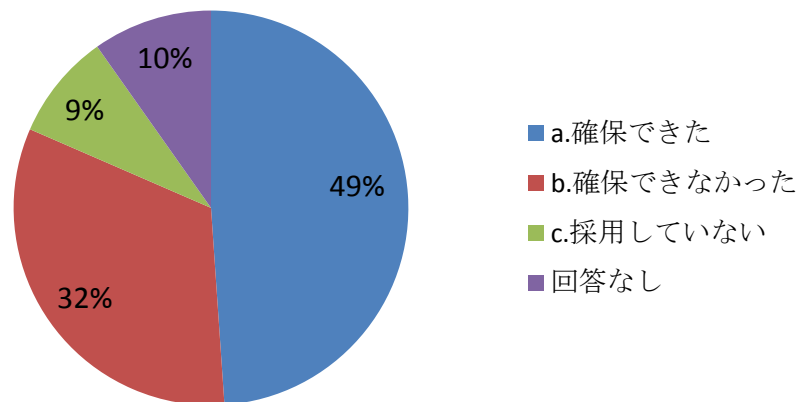
平成30年春入社採用状況

平成30年春入社既卒・第二新卒等を含む全体の採用数について、必要人数を確保できましたか。また、平成30年春入社の新卒のみの採用数について、必要人数を確保できましたか

既卒・第二新卒等を含む全体の採用数について



新卒のみの採用数について

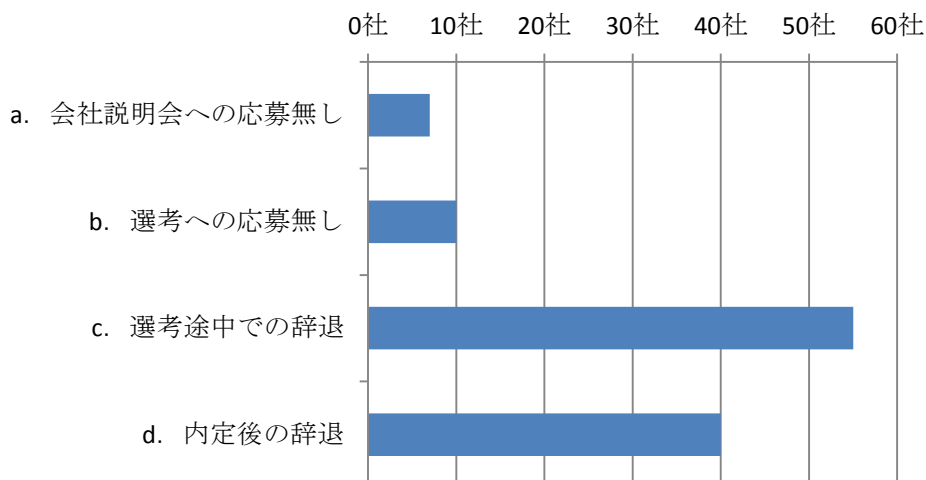


- ・平成30年春入社既卒・第二新卒等を含む全体の採用数については、29%の企業が必要数を確保できなかった。一方、必要人材数を確保できた企業は全体の55%に留まった。
- ・平成30年春入社の新卒採用については、必要数を確保できた企業は49%、確保できなかった企業が32%となり、必要数を確保できた企業が5割程に留まる結果となった。

(主な意見)

- ・大学新規学卒採用に関しては、一昨年頃より説明会や選考への参加人数が減少し始める等、売り手市場であることの影響が表れるようになってきた。

平成30年春入社の新卒採用活動において発生した課題を全てお選びください。

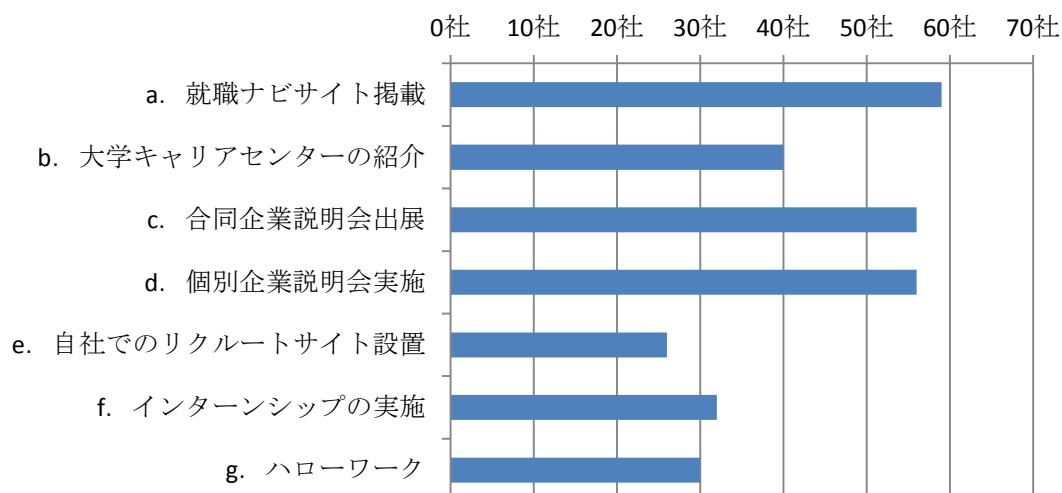


- ・多くの企業で「選考途中での辞退」や「内定後の辞退」が発生していることがわかった。

(主な意見)

- ・エントリー数に変わりはないが内定辞退が増加している。
- ・大学新規学卒者の選考辞退や内定辞退が多発したため、学校推薦による高校新規学卒者に絞り採用活動を行うことにした。

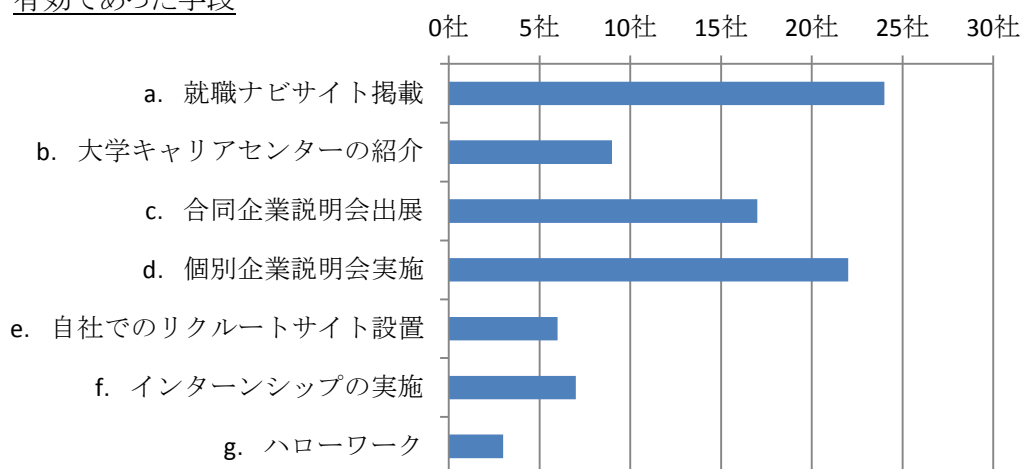
平成30年春入社の新卒採用について、貴社が採用した人材確保手段を全てお選びください。



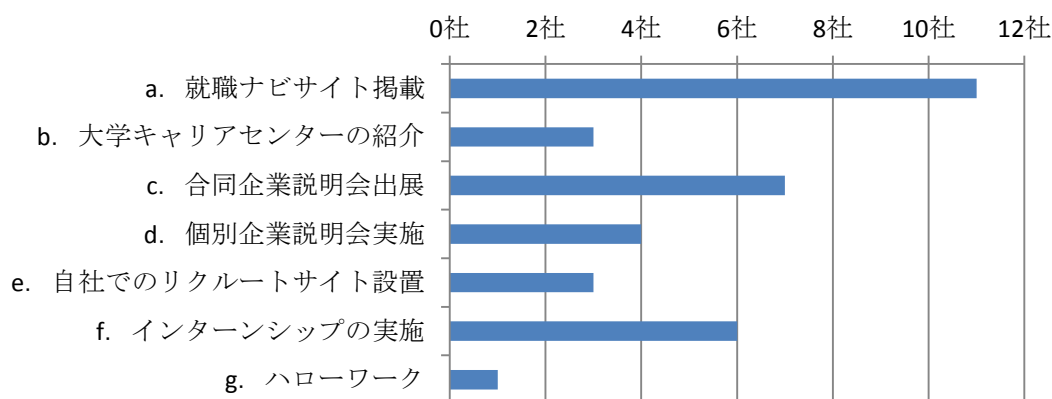
- ・「就職ナビサイト掲載」が最多であった。
次いで、「合同企業説明会出展」、「個別企業説明会実施」であった。

平成30年春入社の新卒採用において有効であった手段、今後実施を見直す余地があるもの、それぞれに該当するものをお選びください。

有効であった手段



今後実施を見直す余地がある手段



- 有効であった手段として「就職ナビサイト掲載」、「個別企業説明会実施」が多く挙げられた。
(主な理由)

「就職ナビサイト掲載」

- 幅広い学生に向けアプローチが出来る。
- 安定したエントリーを見込める。
- 学生にアピールする為には不可欠である。

「個別企業説明会実施」

- 興味を持つ学生に向けて魅力をアピール出来た。
- 積極的に動く学生をエントリーに誘導出来た。

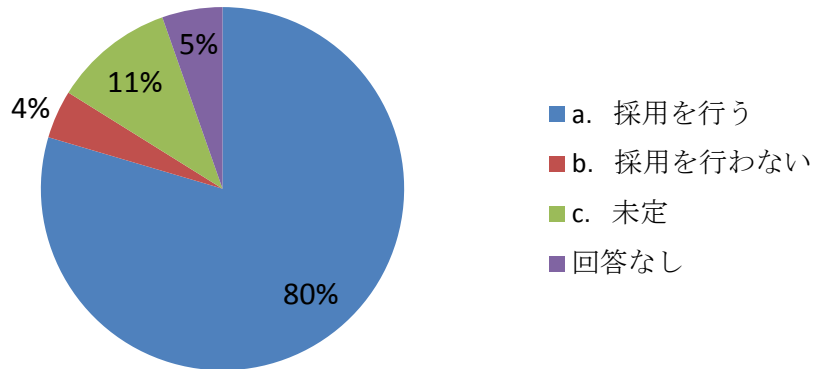
- 今後実施を見直す余地がある手段として「就職ナビサイト掲載」が最も多く挙げられた。
(主な理由)

「就職ナビサイト掲載」

- とりあえずエントリーを行い、選考が始まると辞退する学生が多発したため。
- ナビサイトに掲載しているだけでは学生にも気づいてもらえず魅力も伝わらないため、今後はもっとうまく活用する方法を検討する必要がある。

平成31年春入社採用予定

平成31年春入社採用活動について、新卒採用を行いますか。

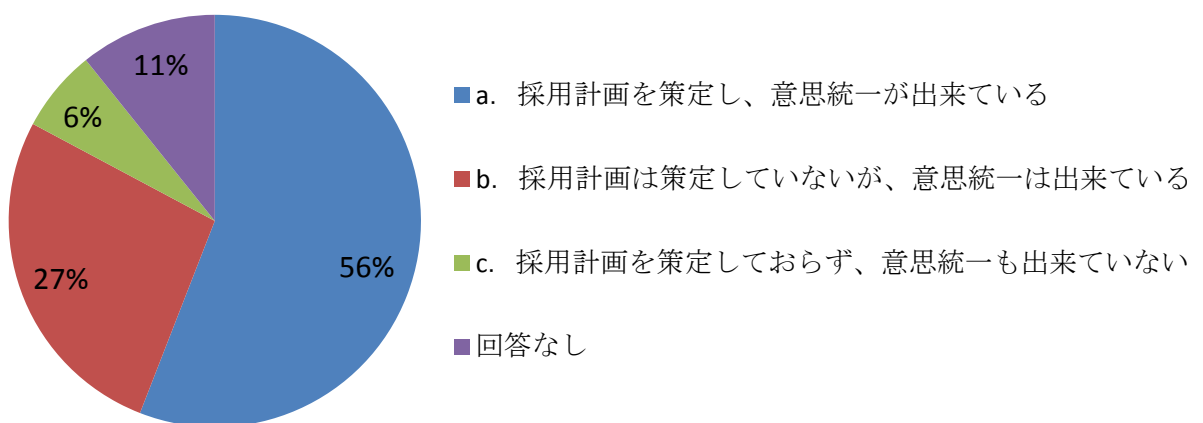


- ・ 80%の企業が採用活動を行うと回答し、企業側の採用意欲の高さが窺えた。

(主な意見)

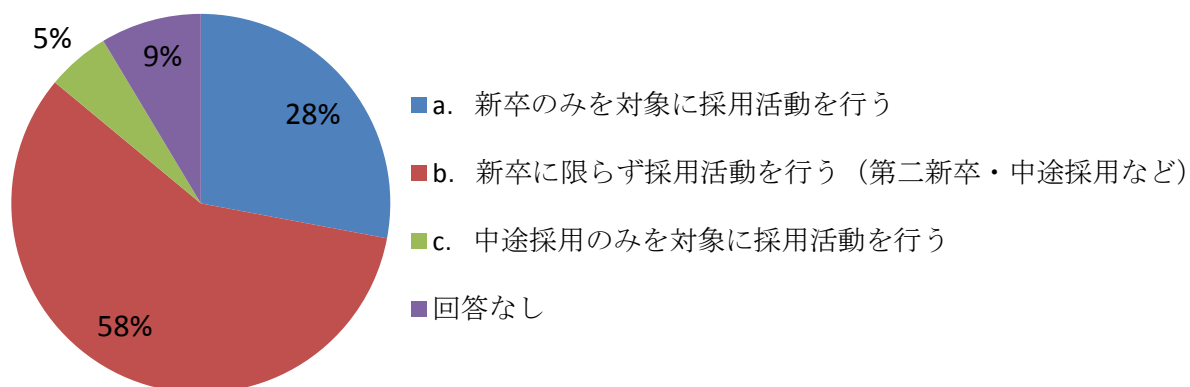
- ・ 引き続き採用活動を行うが、毎年状況が変化しており、学生の動きの変化に対応することも難しくなる。今年も中小企業にとっては苦しい状況になると思う。

平成31年春入社採用活動について、採用計画の策定など、社内で方針は共有できていますか。



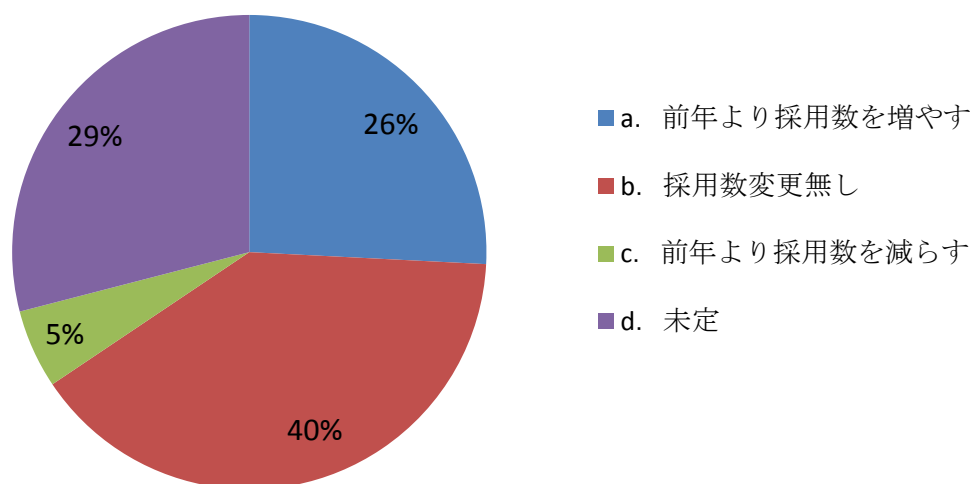
- ・ 採用計画を策定し計画的に採用活動を行っている企業が56%と過半数を超える結果となった。

平成31年春入社採用活動の対象について、該当するものをお選びください。



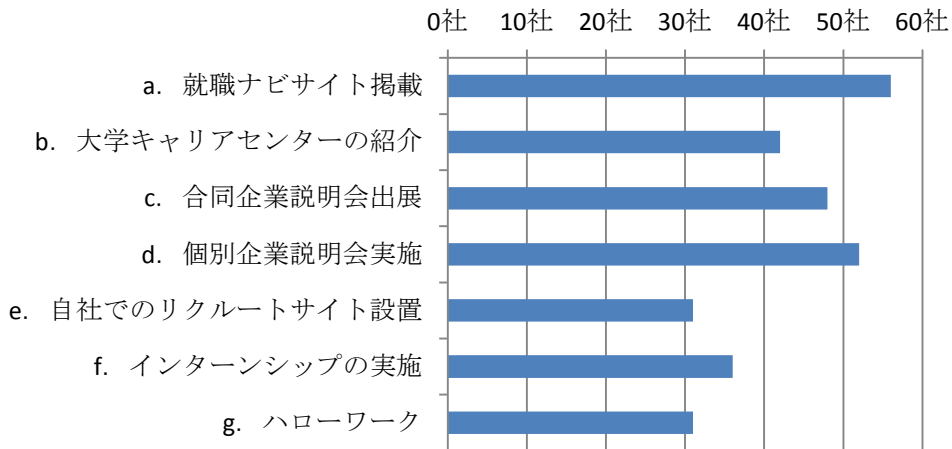
・新卒に限らず採用活動を行う企業が58%と最多であった。

平成31年春入社採用予定人数について該当するものをお選びください。



・「採用数変更無し」が40%と最多であったが、「前年より採用数を増やす」が26%と採用意欲が高い。

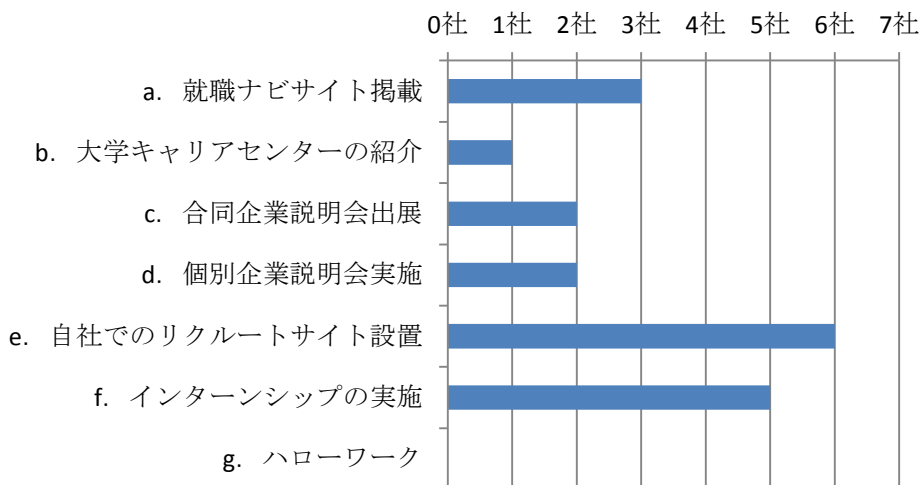
平成31年春入社の新卒採用について、貴社が採用する人材確保手段を
全てお選びください。



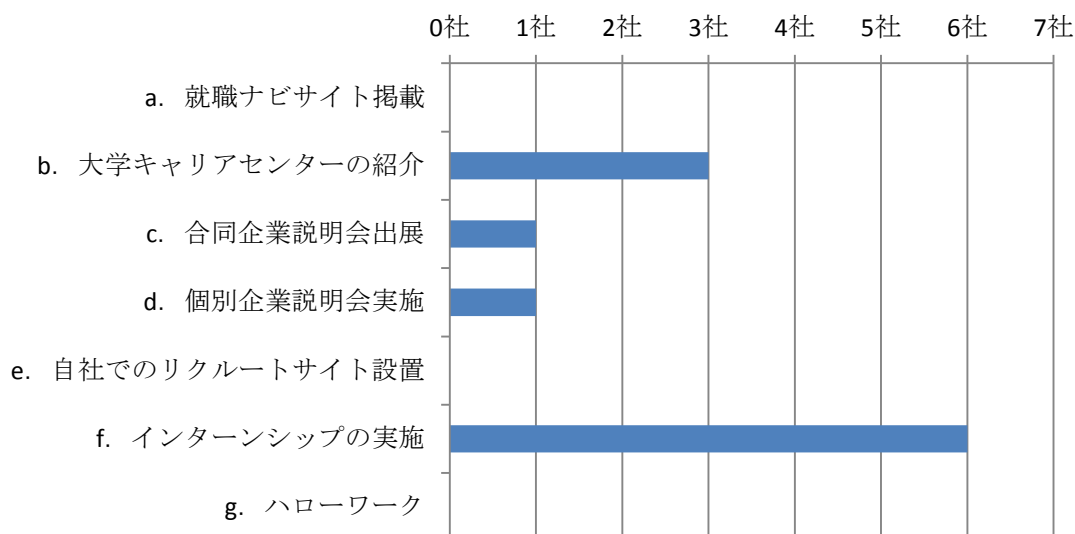
- ・「就職ナビサイト掲載」が最多であった。次いで「個別企業説明会実施」、「合同企業説明会出展」となり、平成30年度とほぼ同様の内容が予定されている。

平成31年春入社の新卒採用において、平成31年春入社に関する採用活動より新たに導入することが決定しているものがあれば、また、今後自社での採用活動に新たに取り入れるべきと考えている手段があればお答えください。

新たに導入する手段



今後取り入れるべきと考えている手段



・新たな採用手段を取り入れることはせず、現在活用している手段を引き続き実施する企業が多数を占める。

・その中で、新たに導入する手段として「自社でのリクルートサイト設置」、「インターンシップの実施」が多く挙げられた。

(主な理由)

「自社でのリクルートサイト設置」

- ・今の学生に向けてPRするためには不可欠だと感じていたため。
- ・学生の目に留まる情報ツールとして活用するため。

「インターンシップの実施」

- ・早期から学生に向けて会社や業界の魅力をアピールするため。

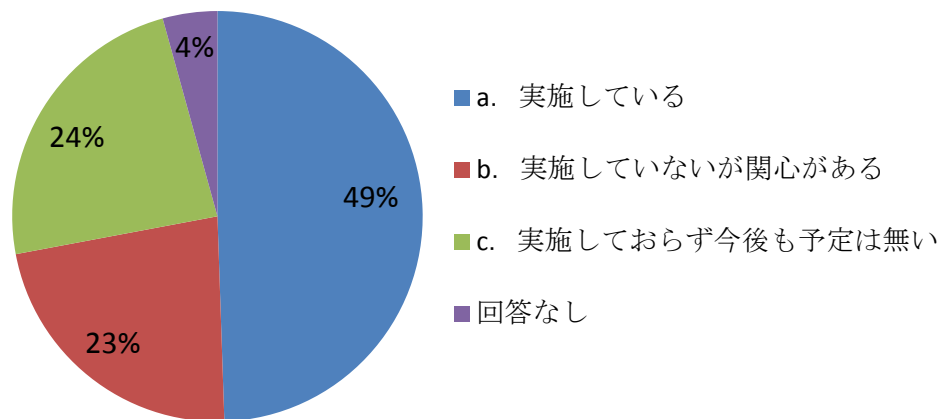
・今後取り入れるべきと考えている手段として「インターンシップの実施」が最も多く挙げられた。

(主な理由)

「インターンシップの実施」

- ・本来は採用と無関係であるべきだが、学生を積極的に採用するためには実施を避けて通れない状況となりつつあるため。

インターンシップを実施していますか。



- ・ 49%の企業が実施していると回答。また、実施していないが関心があると回答した企業が23%となった。

(主な意見)

実施している企業

- ・ 2月に1日完結型のような短期インターンシップを実施している。
- ・ 大学と連携して、学生の休暇時期に1週間～2週間程度の受け入れを行っている。
- ・ 大学が主導で実施するキャリア教育プログラムを活用したインターンシップとして3日程度の期間で学生を受け入れている。

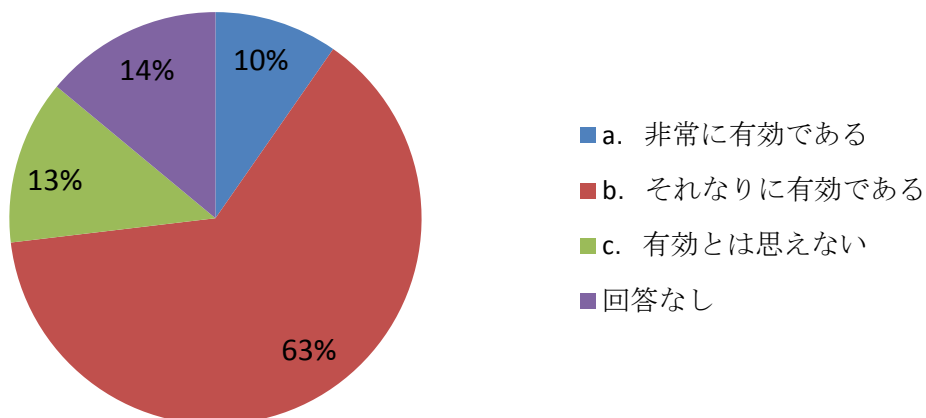
実施していないが関心がある企業

- ・ 自社設備や人員不足等の関係で学生の受け入れが出来ないが、学生への魅力アピールに繋がるのではと感じている。

実施しておらず今後も予定が無い企業

- ・ インターンが活発に行われる時期と業務繁忙期が重なり対応できない。
- ・ 1日完結型のインターンシップが多くなり、事実上単なる会社説明会になっている現状に疑問がある。

近年、新卒人材確保に関する学生向け会社PRツールとして注目されている
インターンシップについて、貴社の意見をお聞かせください。



- ・「それなりに有効である」と回答した企業が63%と最多であった。

(主な意見)

非常に有効である

- ・早期に学生と出会い、自社を知ってもらう手段としては最も有効である。
- ・採用後のミスマッチ防止手段として有効である。

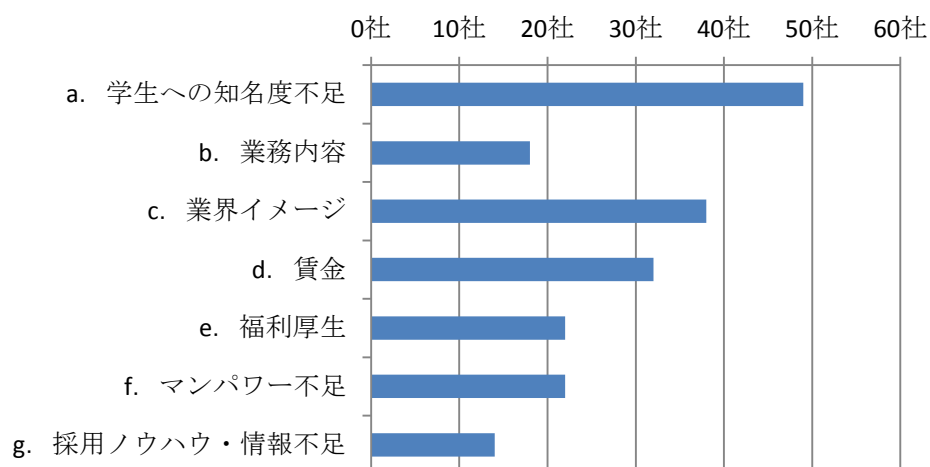
それなりに有効である

- ・インターンシップ参加者から内定者は出なかったが、今後につながると考えられる。また、選考エントリーの母集団形成には欠かせない要素になると考えられる。
- ・自社の雰囲気や業務内容をより深く知ってもらい、学生の中で志望度を上げてもらうためには有効だが、必ずしも採用したい人材の確保に繋がるわけではない。
- ・学生を受け入れる際には社内の理解を得て協力を呼びかける必要がある。加えてプログラム内容についてもしっかりと準備しないと有効な手段とはならない。
- ・採用活動との線引きが難しく学生受け入れ準備の手間もかかるため、実施方法には常に改善の余地があるが、上手く行えば有効な手段となる。

有効とは思えない

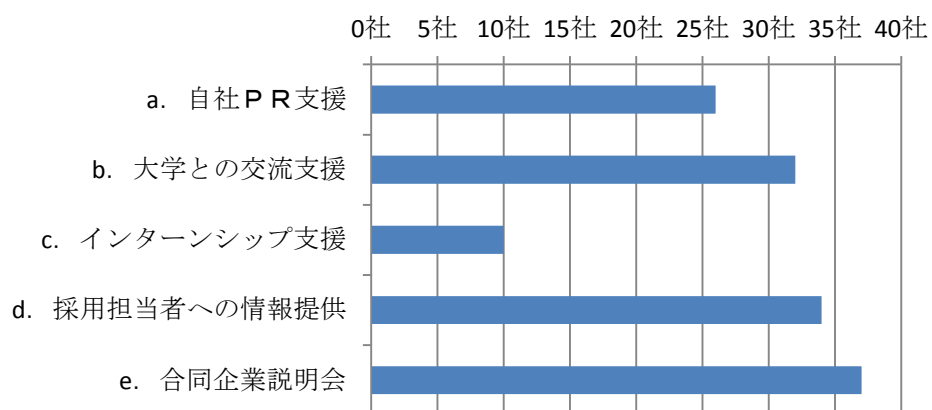
- ・売り手市場では中小企業が学生を囲い込むことは難しい。

新卒人材確保における課題と考えているものを全てお選びください。



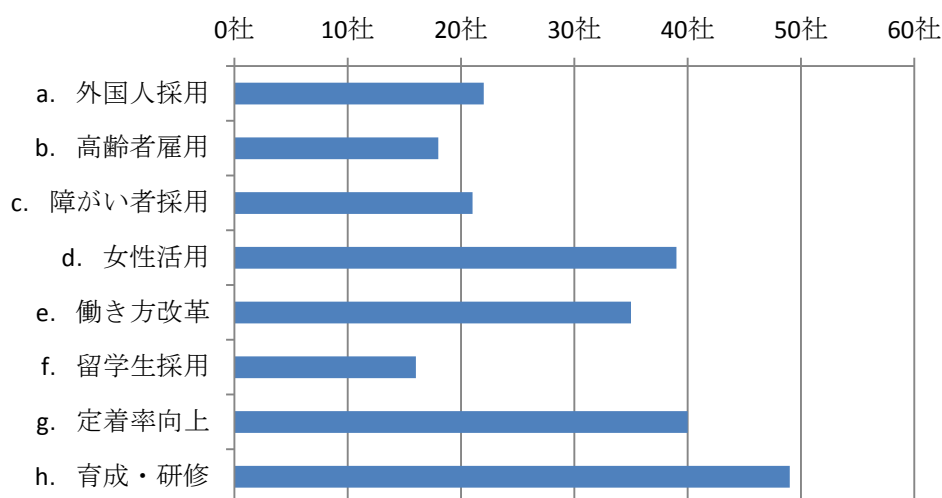
- ・「学生への知名度不足」が最多、次いで「業界イメージ」、「賃金」となった。

京都商工会議所に求める支援を全てお選びください。



- ・「合同企業説明会」が最多、次いで「採用担当者への情報提供」、「大学との交流支援」となった。

人材確保に関して実施している、または今後実施について興味のある分野を
全てお選びください。



- ・「育成・研修」が最多、次いで「定着率向上」、「女性活用」となった。

調査まとめ

以上が今回実施した「人材確保及びインターンシップに関する状況について」のアンケート調査結果である。今回のアンケート調査から、多くの中小企業が学生優位である売り手市場の影響を受けて人材確保に苦勞していることが分かった。新規学卒人材採用に関しては、選考途中での辞退や内定後の辞退が多発し、必要数を確保できた企業が50%を切る結果となった。

このような状況の中、来年度以降の採用についても、多くの企業が前年度と同じ採用数を目指す、または採用数を増やすと回答しており、企業側の採用意欲は引き続き高い。

また、約半数の企業が、新卒人材確保における課題として「学生への知名度不足」を挙げている。このような現状で、学生に向けて企業の魅力を発信する手段として注目されているインターンシップの実施や有効性について調査を行ったところ、約半数の企業がインターンシップを実施していると回答した。学生に向けての魅力発信としてのインターンシップの有効性については、約7割の企業が「非常に有効である」または「それなりに有効である」と回答した。一方で、学生のキャリア観形成のためのインターンシップではなく、単なる会社説明会となってしまう現状に疑問を持つ企業もあった。

さらに、新卒採用において有効であった手段として「就職ナビサイト掲載」や「合同企業説明会出展」、「個別企業説明会実施」が多く挙げられた一方、実施を見直す余地がある手段としても「就職ナビサイト掲載」や「合同企業説明会出展」が多く挙げられている。この結果から、現時点で成果につながっている採用手段にも、更なる改善の余地があると考えている企業が多くあると考えられる。

京都商工会議所ではこれらの結果を踏まえて、昨年度に引き続き、本年度も企業と大学との情報交換会や京商インターンシップコンシェルジュ事業等の人材確保支援を行う。また、本アンケートにおいて、多くの企業が課題としていることが分かった「学生への知名度不足」の解消を目的に本所会員企業がより効果的に利用できる求人情報掲載ウェブページ「京の中小企業ワークナビ」を開設し、京都で働きたいと考えている学生に向けて、本所会員企業の情報発信を支援する。